

地域の会

～ 第9期委員1年を経過して・6月定例会 概要 ～

「地域の会」では、発電所そのものの賛否はひとまず置いて、安全運転に係る事業者や行政当局の必要にして十分な情報提供に基づき、発電所の安全について状況を確認し、地域住民の素朴な視線による監視活動を行うとともに、必要な提言を行うことを目的に、平成15年5月に発足、設置趣旨に沿った様々な活動を行っています。



熱い議論再開

定例会 4カ月ぶり再開

【視点第102号発行中止について】

令和2年6月5日に発行を予定しておりました『視点第102号』は、新型コロナウイルス感染症の影響により掲載を予定していた第201回(3月)、第202回(4月)の定例会が中止となったため発行を中止いたしました。ご迷惑をお掛けいたしますがご理解賜りますようお願いいたします。

第204回定例会(柏崎原子力広報センター)

新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、3月以降中止していた定例会を4カ月ぶりに再開した。感染症対策として、会議時間の短縮、マスク着用の徹底、アクリル板の設置、距離の確保、窓を開けての換気等を行った。

今後の「地域の会」定例会の開催案内 ※開催日時や場所は変更になる場合がありますので、詳しくは事務局にお問い合わせ願います。

第206回定例会

日時：2020年8月5日(水) 18:30～20:00
場所：柏崎原子力広報センター 2階 研修室

第207回定例会

日時：2020年9月2日(水) 18:30～20:00
場所：柏崎原子力広報センター 2階 研修室

新型コロナウイルス感染症対策により、傍聴席は1F実験室に設けます。定員は15名(先着)です。

地域の会の活動はホームページでご覧いただけます。 <http://www.tiikinokai.jp>

第9期委員1年を経過して

委員所感

「地域の会」の第9期がスタートして、4月30日で1年が経過した。

この1年の活動を振り返り、委員が現在の思いを寄せた。(委員の発言は個人の感想です。)

なお、千原健二さんは、令和2年4月30日をもって任期満了となりましたので、退任のあいさつを寄稿いただきました。

■石川 眞理子



いつか人類を襲うとされてきた新型ウイルス

スによるパンデミックが、今まさに地球規模で吹き荒れている。

新型コロナウイルスはしばらく収まらないと思うが、恐るべしはこれに原発事故による放射能汚染が加わった時だ。

コロナ蔓延時+原発事故の複合災害では、様々な矛盾が生じる。例えば原発事故では、マイカー移動は原則禁止。避難はすべてバスを使うとされている。放射能が降り注ぐ中、当然窓は閉め切ったまま。バスの密はクラスターを発生させ、

辿り着いた避難先で全員が重篤な陽性患者に。

こんな最悪のシナリオが現実のものとならぬよう、あらゆる複合災害の要因から、まずは原発事故を取り除く必要性を痛感する。

■石坂 泰男



私の任期も残り1年となった。この9年間

は東日本大震災後の復興期にそのまま重なるが、その中でも「立地地域における対話型政策立案実施プロセスの実現」という方針が第5次エネルギー基本計画で明確に示された事は当会活動が評価された結果として感慨深い。これを受けて当会の発信力強化が検討されるべきかもしれない。その際、当会は様々な立場の市民の集合体であり専門家は違う視点での議論である事と、議論の目的が発電所の安全性を高めるためである事、この2点は堅持し続けなければならない。それを踏まえた上で、残された1年、この会の意義をより高めるために努力したいと考えている。

■石塚 修



地域の会に参加させて戴いているニューエネルギーリサーチの石塚です。

地域の会は議論をしながら最善の方法を探り出す会と自分流に考えていたので、最初に迷惑をお掛けしてしまいました。確かに200回を超える会合にはそれなりの意味があるのだなと納得した次第です。秒速で激動を続ける経済社会では時には独断と実行も必要ですが、21世紀のHappyは、地域の「安心」は情報の共有と共感を得る為の率直かつストレートな議論が何より大切になるかと思えます。それには時間と熱意が必要です。特定の人の独演会ではなく、もっと自由な発言が求められているのかと思います。かしわざき・いいね!

■神林 仁



当会委員になり原子力やエネルギー・環境

分野に興味を持つきっかけになり、勉強させて頂き大変ありがたく思っております。専門的で仔細な議論、何かを決める会では無いという点についてまだ戸惑いがあります。透明性確保が共通目的であることは理解出来ました。

また若手が当会やその趣旨、原子力を始めエネルギー・環境分野に興味関心を持つにはどうしたらよいか考えるようになりました。日本原子力文化財団の世論調査によると全年代共通して地球温暖化に関心が高く、加えて若手は原子力分野の情報保有量が少ないそうです。原発の透明性確保と直接関係が無くとも、関心が高い分野を会で取上げるなどあっても良いのかもしれませんが。

■木村 正隆



刈羽村商工会青年部より第9期地域の会に

参加して1年が経過しました。最初は随所、専門的分からない言葉や話の流れが掴めずにおりましたが、現在は、少しずつですが安

全運転に係る事業者や行政当局の様々な情報提供に基づき、地域住民の皆様の発言や提言の意味を改めて考える機会を頂いたと考えております。

また、商工業に携わる若手が集まる商工会青年部でも情報を持ち寄り、お互いに情報を共有した中で、エネルギーについてさらに深く学んでいこうと思いました。

■桑原 保芳……………



新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、

地域の会も延期、中止が続いている。一日も早く収束し通常の会議再開を望んでいます。4月25日の読売新聞で海外には「ロックダウン（都市封鎖）」があるようです。日本との違いは？の記事で「ウイルス拡散防止に役立つなら、自分の人権をある程度犠牲にしてもかまわない」という調査でこれに同意する人はオーストラリア人95%、イタリア人93%、韓国人が80%を占めた。日本人は32%、世界30か国の平均は75%で日本は最下位でした。理由はいくつかあげ

ていましたが意外な結果でした。個人の権利が制約されることに抵抗感が強い結果とありましたが、義務の伴わない権利の主張が多いと感じるのは私だけでしょか？原子力発電所を議論する中で、個人の意見と日本がどうあるべきか、両方の視点が必要と調査結果をみて強く感じました。

■三宮 徳保……………



昨今の新型コロナウイルス感染症拡大によ

り、当会も定例会を中止する事態となり、今まで当たり前のように過ごしてきた日常が一変させられる状況となりました。地球環境の変化による自然災害発生と同様に、日々の変化に対応しながら生活しなければならぬと痛感している所です。リスクはゼロではありません。リスクがあるという考え方のもと、安全性が進化し続けることが大切だと思います。これは原子力に対しても同じです。その取り組みや活動状況に対し、継続して確認し必要な提言を行う。これが地域の会の目的

であり趣旨である事を理解する必要がありますと考えます。

■須田 年美……………



地球規模で、新型コロナウイルス感染症により社会

生活が想像しきれないほど様変わりしてしまいました。

これは、目に見えないところが一段と恐怖をあおっており、放射能漏れの事故も見えないものへの恐怖は同様、今まで原子力発電所の事故については、発電所立地だけが安全確保に対して

呼び続けているようにも見え、消費地では他人事のような感もりましたが、目に見えない放射能漏れに、事業者も国も原点にも立ち返り、いろいろ不備な案件が起こる度陳謝ではなく住民に寄り添い、安全対策に一段と引き締めを図って欲しいと願います。

■高木 則昭……………



私は第9期から地域の会の委員として高浜

地区3町内会より選出されました。

毎月の定例会に参加してまず感じたことは委員全員が発言する機会があることです。よく一部の人の発言

だけで終わる会議でないことです。これは大変良いことだと思います。また、それぞれの立場からの率直な疑問からの発言が多く勉強になります。委員のみんなの熱意が伝わってきます。私も自分なりに発言をしていきたいと思えます。

定例会以外でも、長岡技術科学大学での対話集会、原子力発電所見学にも参加させていただき貴重な体験が出来ました。

■高桑 千恵……………



安全な避難を求めて、昨年何回か避難に

関することが議題になりました。

避難には東電の正確・迅速な情報発信が重要です。昨年6月の新潟・山形地震の際、東電の第1報FAXは誤報でした。その後東電の改善策が示され、正確な情報発信の体制が1歩進ん

だのではないかと思っています。

避難方法に関して、多くの問題点が繰り返し指摘されてきましたが解決策は見えてきません。避難経由所到着後の避難内容も不明です。避難当事者として、避難に関する疑問点・問題点の解決策を求め続ける事が必要です。

■高橋 新一……………



地域の会のメンバーとなつてこれ4年

になる。当初は「原発推進」の人たちの考えがどうしても理解できなかった。思えば「反原発」が私の生涯のライフワークだった。初めても過言ではない。初めて定例会に参加する際には推進、中立の立場の皆さんと議論などしたくないというのが正直な気持ちだった。勿論、それぞれ考え方や立場が違うことは承知していたのだが。そんな中で推進派と思われるT氏がこの度任期満了で退任された。原発に対する感じ方が私とは両極端に異なる委員だったかながらウマが合っ

た。立場は違ってもやっぱりお互い目指すものは同じ「柏崎人」だったのだ。これからも大いに議論を戦わせながら地域の会の意義を大切にしていきたいと思う。今日この頃である。

■竹内英子……………



毎月
の定例会や視察などの中で

「東京電力の『原発の安全対策』も、県や市村が作成する原発の過酷事故時の『避難計画』も、事実に基づき、新たな知見を加え、日々更新していかねければならないものだ」と実感しています。ひと度過酷事故を起せば、私たちが被ばくのリスクにさらし、故郷を奪う原子力発電に関して、希望的観測や再稼働ありきの都合のいい理解で判断を下しては、将来の世代に対して申し訳が立ちません。地域の会は、立場を超えて「事実を直視する」ための大切な役割を果たす会であると考えています。

■西巻淳……………



連合は安全・安心で安定的な資源・エネルギー

ルギー供給の実現をエネルギー政策としています。

わが国においては、原子力エネルギーに代わるエネルギー源の確保、再生可能エネルギーの積極推進および省エネの推進を前提として、中長期的に原子力エネルギーに対する依存度を低減していく、最終的には原子力エネルギーに依存しない社会をめざし、そのための政策を推進する。

原子力発電所の再稼働については、安全性の強化・確認を国の責任において行うことと、周辺自治体を含めた地元住民の合意と国民の理解を得ることを前提とし、原子力規制委員会において策定された新規制基準について、厳格に適用する。

■三井田達毅……………



第9期スタートから1年、私自身は

第7期からの参画のため5年が経過しました。

当会は異なる立場・主張であっても尊重し、住民目線で原子力に対する不安や課題を解消する為に事業者・国を始めとする公的機関に提言を行う組織であるとして理解しています。

「理性的かつ建設的に物事に相対すること」これは原発に対するスタンス等に関係なく個人の問題であり、会の参画において必要な資質であると考えます。正しい事とは、批判・非難や揚げ足取りではない。私はリスク低減とメリット拡大のために何が出来るのかを模索しながら参画しています。

■三浦法人……………



この会に参加して一年になり活動が活発

通して思う事は住民が関心を持つことの大切さです。一度手を離れた核反応をコントロールすることは大変なことです。更に延々と増え続ける核廃棄物の処理も考えなければなりません。

それらは私達の隣にあってずっと向き合って行かなければならないのです。そう考えると単純に原発を安全に動かせば良いということではなく、電源の多様化は必要なのではないでしょうか。まあ私達に出来ることは電気を消すこと位ですが。

地域の会の目的は、東電はじめ原子力行政の「寄りしむべし、知らしむべし」の固いバリヤードから、一つでも「真相」をつかみ、「透明性を確保する」ことです。

■宮崎孝司……………



地域の会の目的は、東電はじめ原子力行政の「寄りしむべし、知らしむべし」の固いバリヤードから、一つでも「真相」をつかみ、「透明性を確保する」ことです。

さて、柏崎のコロナ感染は原発職員だけで、市内の感染者はいませんでした。感染経路のはっきりしているのは県外に帰省された方だけです。「地域の会」で他の方の感染経路を聞いても、「県外に出ていません、分かりません」の一言。コロナの対策が必要な時でさえ東電は情報を隠します。これに対し地域の会が役割を果たせたとはいえませんが、9期委員任期の半分を終え

ました。残り任期も会の趣旨を再確認し役割を果たすと決意しているところです。

(五十音順)

【退任委員あいさつ】

■千原健二……………



長い10年間でしたが任期満了につき委員を

退任致します。振り返るとこの会に参加することで多くの経験と知識を得ることができました。事故後の福島原発視察もその一つです。

当会では以前あまり議論されてこなかった原発事故時の避難対策について事故後多くの時間を費やして来ました。

原発の透明性を確保するという大きな目的が会の発足以来どれほど達せられたかわかりませんが、避難対策だけは、事業者と行政と立地地区の住民が思いを一つにして議論できる事だと思えます。

今後この会の方向性については残る委員、将来の委員に託したいと思えます。

前回定例会以降の動き、質疑応答

新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、4カ月ぶりに地域の会定例会第204回を、会議時間を短縮して行った。各オプザバーから提出された資料を基に、前回定例会以降の動きについて説明を受け、質疑応答を行った。新型コロナウイルス対策に関して、委員からは感染者の行動や会社としての対応、今後の避難対策への影響等について、住民としての率直な不安や懸念、意見、要望などが出された。会議は、マスク・手袋・消毒など感染予防策の徹底に努めた。

また、千原委員の任期満了に伴い、品田委員が新しく加わった。



「前回定例会以降の動きについて」

新型コロナウイルス感染症について

Q 東京パワージェリックス(株)で4月7日に感染者が出て、4月18日までに東京電力で4人の感染者が確認された。東京電力には産業医もいるそうだが、既に東京で感染者が発生している中で初期対応として適切なものか。産業医の勤務体制はどうなっているのか。感染者の感染経路は把握しているか。

東京電力

4例目を除き、感染が確認された社員については県外への往来はなかった。感染経路については分かっていない。産業医は1名で週4日構内の健康管理室というところで勤務している。初期対応としては、当時の判断基準のついでに37度5分以上の熱が4日間継続というものがあり、発熱が続いたというところで医療機関に相談したもので

Q 産業医は市内の開業医か。

東京電力

市内の開業医ではない。

Q

感染症の長期間の流行をみると、感染症と複合災害を今後考える必要があると思うが、原子力災害の避難計画に感染症対策を盛り込む予定はあるか聞きたい。また、県の避難委員会でも感染症流行時の避難について検討していただきたい。

新潟県

感染症対策は全国的な問題であり、内閣府でも検討が行われていると聞いている。また、原子力だけでなく、自然災害を含めた問題であることから、今後国の動きや自然災害時の検討状況を見ながら対応していきたい。なお、避難委員会に関しては、委員長とも相談しながら対応していきたい。

柏崎市

本日の市長定例会記者会見の中で、自然災害と感染の蔓延が重なった場合、避難所だけが避難の場所ではなく、分散避難や在宅避難などいろいろな選択肢があるというところを市民の方々に対し

刈羽村

避難は原子力災害ばかりでなく自然災害もあり、感染症対策はそれぞれの防災計画の中で、国の動向を見ながら対応の見直しを行っていく。

● 原子力災害の場合には換気も加味して対応してほしい。

Q

東京電力ではマイカーの通勤を規制して通勤バスを使っていたが、バスを使っていたのはいつまでか。

東京電力

通勤バスについては、消毒の徹底やマスクの着用、換気等の対策を講じたうえで現在も使用しているが、在宅勤務等の比率が上がっている。

Q

関連会社はどうか。

東京電力

構内の企業の方には、基本的に当社と同様の対応をお願いしている。

Q 対策はいつから開始したのか。

東京電力 マスクの着用、換気等をはじめとする基本的な対策については4月以前から実施している。

●パンデミック時の原子力事故、複合災害の避難計画も大切だが、東電社内で、換気ができない状態で感染が広がり職員が倒れるということになれば、災害が発生した時に収束することは難しくなる。東京電力自身でしっかりと対策を行ってほしい。



【その他】

Q 東京電力は東芝エネルギーシステムズ(株)と新しい共同会社を設立したとのことだが、7号機の安全対策工事の時ではなく、6号機の安全対策工事の時に共同会社を設立した理由を聞きたい。

東京電力は東芝エネルギーシステムズ(株)と新しい共同会社を設立したとのことだが、7号機の安全対策工事の時ではなく、6号機の安全対策工事の時に共同会社を設立した理由を聞きたい。

東京電力 7号機の対策を進めるなかで、東芝と共同で事業を行うことでより相乗効果・補完効果を期待できるのではないかと、いう気づきを得た。そこで、6号機の安全対策について共同で行うことができないかというところをもちかけたところ合意を得られたもの。

Q 7号機の安全工事を考える際にも考えていければよかったのではないか。

7号機の安全工事を考える際にも考えていければよかったのではないか。

東京電力 そのようなご指摘もあるかもしれないが、その時点での最善の方法を進めていく中で気づく部分もあり、合意に至るまでには調整も必要だった。工事を進めていく中でい

ろいろな知見が得られ、今回の判断に至ったもの。

Q 7号機の燃料洗浄作業に関して。小さいブラシの針があったというのはかなり前の話だと思いが、なぜこの時期に洗浄する必要があるのか。

7号機の燃料洗浄作業に関して。小さいブラシの針があったというのはかなり前の話だと思いが、なぜこの時期に洗浄する必要があるのか。

東京電力 7号機については、直近の運転サイクル(2サイクル)でも燃料被覆管に小さな孔が開いて放射性のガスが原子炉水中に漏れ出すといった現象が確認されている。点検の際に持ち込まれたワイヤーブラシ等の細いワイヤーのようなものが燃料集合体内の構造物に引っかかった状態で被覆管をたたき続け、孔が開いたと考えている。今回、燃料を装荷するまでに、燃料をできるだけ綺麗にしたという思いから、当所においては初めて実施するもの。

Q 当時、開いた孔の対策として燃料棒の下に細かい網を付けて対策を行ったと聞いたが、効果がなかったということか。全部の燃

当時、開いた孔の対策として燃料棒の下に細かい網を付けて対策を行ったと聞いたが、効果がなかったということか。全部の燃

料棒を洗浄するのか。

東京電力 過去の対策については一定の効果があったと考えているが、長期に渡って使用済燃料プールに収めているので、装荷にあたって万全を期する必要がある。念には念を入れて洗浄するもの。洗浄する燃料については、次サイクルで使用予定の872体のうち、新燃料を除いた燃料のなかでもリスクの高い古い燃料と原子炉内の水の流れが多い原子炉内の中央付近に配置する予定の100〜200体を洗浄予定。

Q 福島処理水の課題について、できるだけ早く処理水の処理を行ってもらいたい。自然放射能の1000分の1ならばそれをもつとアピールし地元の理解を得て、とにかく急いでやってもらいたい。

福島処理水の課題について、できるだけ早く処理水の処理を行ってもらいたい。自然放射能の1000分の1ならばそれをもつとアピールし地元の理解を得て、とにかく急いでやってもらいたい。

工ネ庁 確かにALPS小委員会ですら1000

確かにALPS小委員会ですら1000分の1と報告されているが、非常に量が多いこともあり処理には慎重にならざるを得ない部分はある。要望は本省に伝える。

編集後記

早いもので、中越沖地震の発生から13年の月日が経ちました。昨今、日本列島を襲う豪雨災害においても地球温暖化の影響が大きく関わっていると考えられ、自然災害への対応も今後の大きな課題だと考えます。

当会でも、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、様々な行事が中止、自粛を余儀なくされる中、運営委員会で協議した結果、3月から5月までの定例会を中止と致しました。6月定例会より感染対策を取り、活動を再開したところであり、今後も趣旨を理解した議論を積み重ね、情報を発信して行きたいと考えます。

最後に、10年という任期を勤め上げ退任される千原委員、大変お疲れ様でした。今後も地域の会を温かく見守って頂ければと思います。(二宮委員)

